



本社・工場

## 第59期

# 第2四半期決算のご報告

平成22年8月21日～平成23年2月20日



 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地  
TEL(076)267-5111(代) FAX(076)267-8065  
URL <http://www.fuku.co.jp/>

### Communication Agent for Market Driven

私たちは常にお客様と同じ視点に立ち、  
エンドユーザーである「市場」を見つめながら  
情報発信をお手伝いするパートナーとして、  
存在価値を発揮してまいります。  
そして、コミュニケーションの背後に生まれる  
『長期信頼』を果敢に追い求めます。

福島印刷株式会社

証券コード 7870



ふくしまみちお  
代表取締役社長 福島理夫

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第59期第2四半期累計期間(平成22年8月21日から平成23年2月20日まで)の営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、堅調な新興国経済に支えられた企業業績の改善傾向や、一部個人消費の持ち直しが見られたものの、長引くデフレ状況や円高基調の継続に加え、国際的に穀物や資源エネルギー価格が上昇傾向にあることなど、先行き不透明な状況が続いております。

印刷業界におきましても、IT化の進展に伴う紙媒体の減少や、企業の経費削減により需要の減少傾向が続くなか、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況で推移しました。

このような状況のもと、当社はビジネスフォーム等印刷物及びDP(データプリント)サービスの製品開発やサービスの充実を図るとともに、販促告知や事務通知業務においては、顧客志向による総合的な企画提案型の営業活動により需要の創

造を推進してまいりました。また、営業活動から設計・製造にいたるまでの一貫した「標準化」による効率化に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は26億92百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益は72百万円(前年同期は営業損失29百万円)、経常利益は61百万円(前年同期は経常損失38百万円)、純利益は3百万円(前年同期は純損失54百万円)となりました。

今後の見通しにつきましては、一部に回復の兆しも見え始めていた日本経済も、予期せぬ東日本大震災の発生により、一気に先行き不透明感が増しており、予断を許さない状況が続くものと考えられます。

印刷業界におきましても、震災による用紙調達面などへの影響や、従来の印刷需要の低迷や競争激化もあり、引き続き厳しい経営環境が続くものと考えられます。

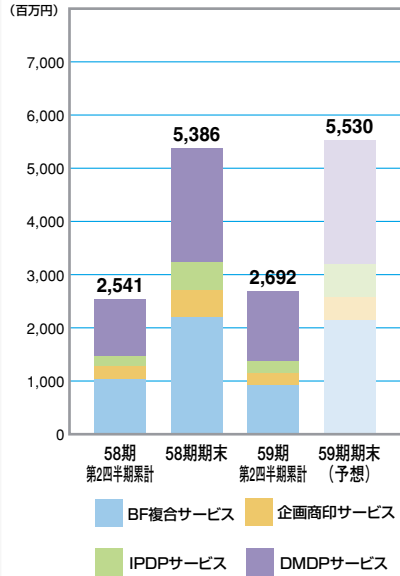
このような状況のもと、当社はビジネスフォーム等印刷物及びDPサービスの製品開発やサービスの充実、企画提案型営

業の強化、「標準化」による効率化の推進などにより、業績向上に向けて全力で取り組んでまいります。

なお、中間配当金につきましては、平成23年3月30日開催の取締役会において、1株当たり4円と決議しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

製品分野別売上高



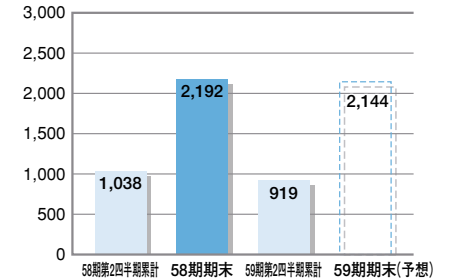
BF(ビジネスフォーム)複合サービス

- コンピュータ用帳票
- 一般帳票
- シール・ラベル など



BF複合サービスは、内容明細と送り状を一体化した「ピッキング送り状」が好調に推移したものの、企業のIT化の進展に加え、景気低迷による企業の経費削減傾向により、需要は減少しております。売上高は前年同期を118百万円(11.4%)下回る9億19百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



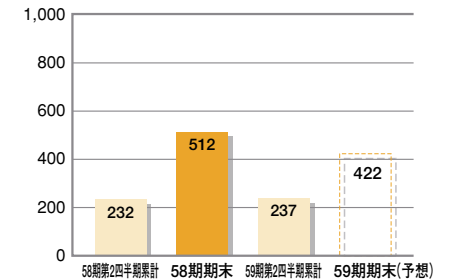
企画商印サービス

- 広告宣伝用印刷
- ディスクロージャー関連印刷
- マニュアル印刷 など



企画商印サービスは、企業の広告宣伝費の抑制による受注環境の悪化のなか、当社「ならでは」製品の「圧着くじ」の販売開始等により、売上高は前年同期を4百万円(2.1%)上回る2億37百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



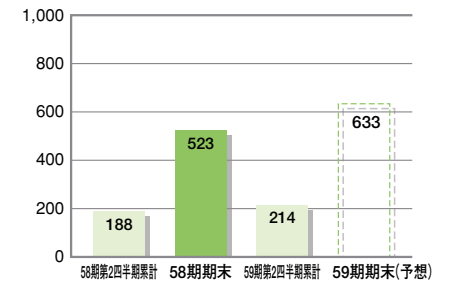
IPDP(インフォメーションプロセッシングデータプリント)サービス

- 事務通信処理受託
- 帳票出力処理 など



IPDPサービスは、お客様からお預かりしたデータを印刷物に出力する「事務通信DPサービス」が好調に推移しました。売上高は前年同期を26百万円(14.1%)上回る2億14百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



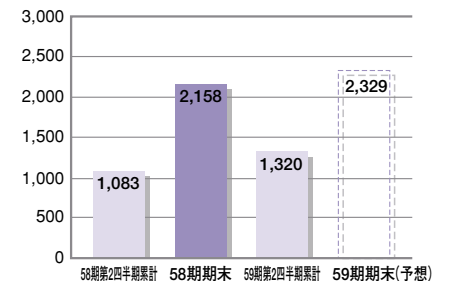
DMDP(ダイレクトメールデータプリント)サービス

- ダイレクトメール
- ダイレクトメール処理受託 など



DMDPサービスは、プライバシー保護対応の「あと糊タイプはがきDM」、冊子型DM「UD(ユニバーサルデザイン)メール」の販売が好調に推移しました。売上高は前年同期を237百万円(21.9%)上回る13億20百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



福島印刷の

新4分野による複合サービスの実現

当社は情報発信のパートナーとして、「コミュニケーション エージェント」という新しいビジネスモデルを目指しています。お客様の情報発信は多様で、その手段、ツールにも様々な選択肢があります。そこからお客様視点に立ち多様な可能性を求めて、4つのサービス形態を整備拡張しています。

## DPサービス事業の強化

印刷業界の景気低迷が続くなか、当社においてもこれまでの主力製品であったビジネスフォーム関連の売上高は減少傾向で推移しています。こうした状況を踏まえて、DPサービス事業のさらなる拡充のため、4億円強の設備増強(期末までの検収予定)を図りました。また当社「ならでは」製品である『ラテックスパック』などの販売を強化していきます。

### ■ 高速フルカラーIJプリンタの増設: [Truepress Jet520ZZ]

平成20年11月、大日本スクリーン製造(株)製の高速フルカラーIJプリンタ[Truepress Jet520]の導入から2年。好調なDPサービス事業を強化するため、同社の最新鋭機[Truepress Jet520ZZ]を導入しました。新ラインは現行の2倍以上の生産が可能で、また、既設ラインと併せて2ライン化することによりライン停止による納期遅延リスクを回避することができます。



IJプリンタラインは、A4サイズ換算で150,000ページ/時の処理能力を持ち、1通ごとに内容の異なる通知物等バリエーション印刷物の大幅なリードタイム短縮を実現いたします。

### ■ 高品質カラープリンタの増設: [Color 1000Press]

オフセット印刷に匹敵する高いカラー印刷品質を目的としたカット紙カラーDPラインにも、富士ゼロックス(株)製の最新鋭機[Color 1000Press]を導入し、2ライン体制を構築しました。新ラインは既設システム [iGen3]よりメンテナンス性の向上が図られ、[iGen3]との2ライン体制による生産体制強化を目指します。



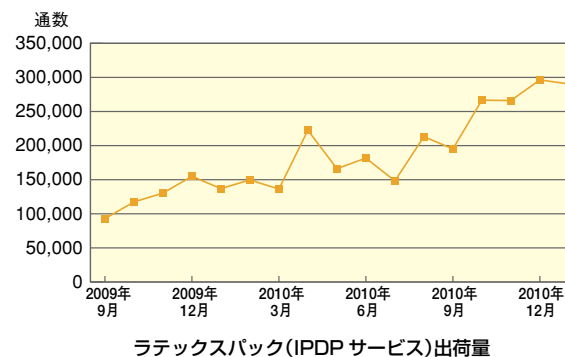
カット紙カラーDPラインは、A4サイズ換算で12,000ページ/時となります。高品質カラープリンタは、高級商材等高品質訴求性が要求されるバリエーション印刷物のニーズに応じてまいります。

### ■ 多種多頻度コンタクトDM『ラテックスパック』

『ラテックスパック』は「多種・多頻度・小部数の生産・発送は高い」という旧来の常識を覆した、ダイレクトメール製造ラインのエンジニアリング革新です。

劇的なコストダウンの秘密は「多種同時ノンストップ出力・加工」。業界最先端のバリエーションデータ加工技術とツール加工技術が融合したワンストップソリューションです。

多頻度・小部数処理になることによる段取り替え等のコストアップ要因を、自社開発の多種バリエーション版面データの処理システム「フルカラーPDプリント」により連続処理を実現。



DM等で市場ニーズが高まっている、宛先ごとに写真等を差し替える「ワン・トゥ・ワンDM」も実現いたします。また、入稿→発送リードタイムの短縮により、DM戦略に不可欠な「タイミング」も逃がしません。

当社では『ラテックスパック』を重要な商品サービス戦略の一つとして事業展開していきます。

### ■ データプリント技術を駆使した「圧着くじ」

キャンペーンや福引企画等で用いられることの多い「くじ券」を、高速カラープリンタ出力と水性糊仕様の品質保証設計により安心かつ安全に製造することができます。また、複雑な区分・梱包条件も高速カラープリンタ出力で実現できます。当社「ならでは」のインクジェット技術とツール加工技術を活用した品質保証設計を実施しています。

#### 「くじ券」における保証項目

- ① 金券同等の管理(残紙、廃棄紙の管理)
- ② 遮蔽効果(中面情報の確実な遮蔽)
- ③ 剥離管理(適正な開封状況管理)
- ④ 員数管理(当り券の過不足防止)
- ⑤ 梱包管理(店舗別梱包等現品管理)



〈表面〉



〈中面〉

当社販促サンプル

■ 四半期貸借対照表

(平成23年2月20日現在)

科目	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	<b>2,013,886</b>	<b>2,095,306</b>
現金及び預金	485,319	620,240
受取手形及び売掛金	1,190,231	1,130,148
製品	82,941	91,085
半製品	19,397	25,361
仕掛品	99,588	66,970
原材料及び貯蔵品	80,430	76,562
繰延税金資産	36,680	42,735
その他	20,129	42,992
貸倒引当金	△ 833	△ 791
<b>固定資産</b>	<b>4,130,017</b>	<b>4,230,563</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>3,881,416</b>	<b>3,918,879</b>
建物	1,624,050	1,666,912
機械及び装置	742,268	799,064
土地	965,106	965,106
その他	549,990	487,795
<b>無形固定資産</b>	<b>91,239</b>	<b>97,993</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>157,361</b>	<b>213,690</b>
投資有価証券	79,107	81,521
その他	83,633	137,843
貸倒引当金	△ 5,379	△ 5,674
<b>資産合計</b>	<b>6,143,903</b>	<b>6,325,869</b>

単位:千円

科目	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>	<b>1,557,304</b>	<b>1,625,258</b>
買掛金	187,383	180,251
短期借入金	470,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	334,820	354,920
未払法人税等	43,747	58,506
未払金	76,908	86,620
賞与引当金	49,750	58,708
役員賞与引当金	4,950	9,900
その他	389,743	356,351
<b>固定負債</b>	<b>1,033,665</b>	<b>1,142,558</b>
長期借入金	398,720	556,580
退職給付引当金	119,344	94,076
長期未払金	55,855	—
役員退職慰労引当金	—	54,530
その他	459,746	437,371
<b>負債合計</b>	<b>2,590,969</b>	<b>2,767,817</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	<b>3,548,807</b>	<b>3,569,519</b>
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
利益剰余金	2,803,676	2,824,372
自己株式	△ 69	△ 52
<b>評価・換算差額等</b>	<b>4,126</b>	<b>△ 11,466</b>
その他有価証券評価差額金	4,126	△ 11,466
<b>純資産合計</b>	<b>3,552,933</b>	<b>3,558,052</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>6,143,903</b>	<b>6,325,869</b>

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期損益計算書

(平成22年8月21日から平成23年2月20日まで) 単位:千円

科目	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間
売上高	2,692,184	2,541,988
売上原価	2,000,440	1,938,259
売上総利益	691,744	603,728
販売費及び一般管理費	619,299	633,473
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>72,445</b>	<b>△ 29,744</b>
営業外収益	5,007	10,631
受取利息	147	297
受取配当金	778	655
作業くず売却益	2,302	1,338
助成金収入	—	3,664
その他	1,778	4,676
営業外費用	15,983	18,962
支払利息	15,949	18,962
その他	33	—
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>61,469</b>	<b>△ 38,074</b>
特別利益	3,124	—
保険差益	3,124	—
特別損失	31,193	27,991
固定資産除却損	3,891	195
固定資産取壊費用	—	1,950
投資有価証券評価損	27,301	25,846
<b>税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失(△)</b>	<b>33,400</b>	<b>△ 66,066</b>
法人税、住民税及び事業税	38,500	1,204
法人税等調整額	△ 8,403	△ 12,755
<b>四半期純利益又は 四半期純損失(△)</b>	<b>3,304</b>	<b>△ 54,515</b>

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(平成22年8月21日から平成23年2月20日まで) 単位:千円

科目	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	173,306	309,243
投資活動によるキャッシュ・フロー	57,437	7,606
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 318,664	△ 306,316
現金及び現金同等物の増減額	△ 87,920	10,532
現金及び現金同等物の期首残高	507,540	365,660
現金及び現金同等物の 四半期末残高	419,619	376,193

(記載金額は千円未満切捨)



(前列左より) 館、福島、下島、戸田  
(後列左より) 松谷、市村、古林、岩木

■ 役員 (平成23年4月28日現在)

代表取締役社長	福島理	取締役	市村嘉	取締役	松谷裕
専務取締役	下島	取締役	古林孝	取締役	岩木弘
常務取締役	館芳	常勤監査役	古林孝	常勤監査役	岩木弘
取締役	戸田綾	監査役	古林孝	監査役	岩木弘

■ 会社の概要

商号	福島印刷株式会社
英文名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076)267-5111(代)
設立	昭和27年9月10日
資本金	4億6,000万円
従業員数	377名
事業所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都中央区日本橋本町4丁目5番14号 入江ビル6F 富山営業所 富山市上袋715番地1 福井営業所 福井市間屋町3丁目811番地 大阪営業所 大阪府中央区平野町3丁目3番8号 辻梅ビル3F 名古屋営業所 名古屋市中区金山1丁目2番2号 クマダ第2ビル5F

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで  
 定時株主総会 11月  
 基準日 定時株主総会 8月20日  
 期末配当 8月20日  
 中間配当 2月20日  
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日  
 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
 中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

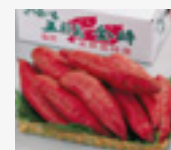
●未払配当金の支払について  
 株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株  
 上場証券取引所 名古屋証券取引所  
 公告方法 電子公告により当社ホームページ (<http://www.fuku.co.jp/>) に掲載いたします。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

平成22年優待品



金沢五郎島金時



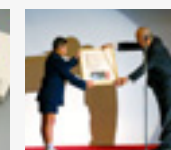
「四十萬谷本舗」かぶり寿し



能登牛カレー&シチューセット



「ルミゼドゥアッシュ」焼き菓子詰め合わせ



ざぶん賞へ寄付